

YUSENKAI MEDICAL CORPORATION

HIMAWARISHIKA REPORT 2024





はじめに

院長・理事長 岡本 佳明
YOSHIAKI OKAMOTO



こんにちは、院長の岡本です。

このたび医療法人社団湧泉会では、昨年1年間の取り組みをまとめた『ひまわり歯科アニュアルレポート2024』を作成いたしました。

歯科診療所はかつてコンビニよりも数が多いと揶揄された時期もありましたが、言い換えれば日本のどこに暮らしていても歯科診療所にアクセスできていたということでもあります。しかし現在、歯科診療所は2030年～2040年頃にかけて急激に減ることが予測されています。

さらに数少なくなる歯科診療所は都市部に集中し歯科医療提供体制の地域格差が広がると言われてしています。

このことは昨年末の日経新聞にも歯科医師減少に関わる記事が掲載されたことからわかるように、徐々に現実味を帯びてきています。人口減少が進んでいるのだから歯科診療所も減って良いのではという意見もありますが、時代と共に歯科に求められるニーズは多様化してきています。例えば虫歯の穴を修復する、入れ歯を入れるなどの形態の回復のみならず、摂食嚥下機能の回復や維持、口腔内の炎症をコントロールすることにより全身の健康に寄与するなどです。このニーズは高齢になるほど増していきます。また、人口減少のため、その地域にアクセス可能な歯科診療所が無くなってもいいなどと言うことは、日本の国民皆保険制度の「誰もが安心して医療を受けられる」という理念をあきらめてしまうことであり、国民のためを思うと医療人として、その問題に何とか取り組むべきであろうと私は思います。

現在、社会インフラを支えている団塊ジュニア世代の大多数が介護を受けることになる時期には今ある歯科診療所の半数以上が閉院や休業していると予想されています。理由は主に2つあり、現在の歯科診療所の開設者の半数近くを60代以上の世代が占めており10年後には70代を迎え診療所の継承ができない場合は閉院してしまうからです。

2つ目の理由として、今後の歯科業界を支える世代の40代

以下の歯科医師は制度により養成数を制限され、かつては毎年3000人以上が養成されていた時代に比べ、近年は毎年約2000人しか歯科医師になれず、以前より1000人以上少なくなっています。また、女性歯科医師の比率は年々増えていること、歯科診療所を開設することより、病院や歯科診療所に勤務することを希望する者が増えていることなどの理由により、高齢化により閉院する診療所の数を若い世代が補うことは数字的に考えて難しいのです。

要するに、団塊世代・団塊ジュニア世代という日本の人口ボリューム層の歯科医療ニーズが増加する時期に歯科診療所が急激に減少する上、新規開業の歯科診療所は都市部に集中し地方は歯科診療所不足が発生するのではないかと危惧されています。

さらに増加する高齢者や有病者に対応するために、より専門性の高い歯科医師が育成されようとしています。しかし、せっかく専門性の高い歯科医師が育成されても医科の医師のように専門医として勤務できる、受け皿の診療所は歯科にはまだ少ないのが現状です。

そこで、ひまわり歯科では早くからそのような社会問題に対応できる体制を整えてきました。

「地域支援型多機能歯科」いわゆる1.5次歯科診療所ともいわれています。

専門医・女性歯科医師・シニア歯科医師の雇用により、専門医の受け皿となり、放っておくと減少する歯科医師を引退させたりブランクを作らせたりせず最大限の歯科医療が提供できるように取り組んでいます。地域の歯科診療所の先生方とも連携し病院歯科や大学病院との機能分化を図り限られた歯科医療資源で地域のニーズに応えながら広域で専門医が活躍できる体制を整え、次世代の歯科医師である研修医教育やリカレント教育にも取り組んでいます。

まだまだ道半ばではありますが、私たちの活動を市民の方々と医療機関の皆様へご説明をして社会の役に立つ歯科診療所を目指したいと思いこのアニュアルレポートを作成いたします。



目 次

沿革 OUR HISTORY

- 5 | 医療法人社団湧泉会ひまわり歯科の25年

行動規範と事業計画 PHILOSOPHY

- 7 | 基本理念
- 7 | 基本的価値観/行動指針
- 7 | 存在意義

組織と体制 STRUCTURE

- 8 | 診療拠点
- 8 | 従業員数
- 9 | 管理患者数の推移

地域連携 LOCAL COOPERATION

- 10 | 地域連携
- 12 | 学会発表・講演活動



活動報告

ACTIVITY REPORT

- 13 「ひまわりカフェ」
- 14 「歯科衛生士」
- 15 「小児在宅」
- 16 ひまわり歯科の「人」



OUR HISTORY

沿 革

医療法人社団湧泉会ひまわり歯科の25年



1999-

1999年1月11日開業

- 🦷 インプラント治療開始
- 🦷 女性の働きやすい環境整備
- 🦷 歯科矯正治療開始
- 🦷 静脈内鎮静下歯科治療開始
- 🦷 ISO9001取得
- 🦷 保育士による託児開始

2010-

- 🦷 医療法人化（医療法人社団湧泉会）
- 🦷 訪問歯科診療開始
- 🦷 ひまわり歯科現在地へ移転
- 🦷 院内託児所「COCOランド」運営開始
- 🦷 企業風土…「ひまわり村」という助け合いの風土を育成
- 🦷 新館増築
（障がい者歯科・小児歯科・口腔外科・矯正歯科などを充実）
- 🦷 3つのコンセプト ①教育②地域③働き方
- 🦷 日本障害者歯科学会臨床経験施設
- 🦷 厚生労働省指定歯科医師臨床研修施設（単独型・管理型）
- 🦷 医療的ケア児訪問診療開始
- 🦷 暮らしの保健室すまいる
- 🦷 全身麻酔下歯科治療開始
- 🦷 研修医用社宅完成
- 🦷 【4STORY 7GOAL's】【3つの医療目標】
- 🦷 地域支援型多機能歯科診療所
（いわゆる1.5次歯科診療所）

OUR HISTORY



2020-

- ♥ デジタル歯科診療の進化
- ♥ 人生100年対応歯科診療所を目指す
- ♥ 「ひまわりカフェ×タニタカフェ」運営開始
- ♥ 認定栄養ケア・ステーション
- ♥ 次世代の歯科医療従事者の育成機関機能の充実化
- ♥ 歯科検査部門運営開始
- ♥ 「食べれる外来」診療開始
- ♥ 山間部・離島診療サポート事業開始
- ♥ イノベーション事業
- ♥ 一般企業と食事用マスクの共同開発販売
(コロナ感染予防事業)
- ♥ NPO団体「日本こうくう医療協会」を立ち上げ
- ♥ 日本障害者歯科学会専門医研修施設
- ♥ 日本歯科麻酔学会準研修機関
- ♥ 医療法人社団湧泉会ひまわり歯科二十五周年祝賀会開催
- ♥ 歯科医院視察ツアー2024<単院 西日本最大級の医療法人>
株式会社船井総合研究所主催

2030-

過去から現在そして未来へ、
私たちは患者様のことを第一に考え、
従業員やその家族や仲間たちの幸せを守る
医院風土を育み社会に貢献し
必要とされ続けることにチャレンジし続けます。



PHILOSOPHY

行動規範と事業計画

基本理念

お口の元気から始まる、一生の健康と笑顔のお手伝いをいたします。



基本的価値観／行動指針

1

自分が
患者様だったら、
ということを想像して
行動します。

2

地域住民の方々の
歯科医療知識の向上を
目指します。

3

限られた
資源と時間の中で
最高の医療サービスを
心がけます。

存在意義

① 教育機関

次世代の医療人材の教育、育成を行い「人」が成長し「人材」を輩出する機関を目指します。

② 社会資本

「笑顔100年つながり愛」をコンセプトに、単なる医療行為に留まらず、人生と健康に深く関わりながら、人々のつながりと共に笑顔を創出する組織を構築します。

③ 組織風土

女性をはじめ、多様な背景を持つ人々が、仕事と生活、そして人生を共有するための空間を提供します。
新しい時代の職場環境は、「長屋文化」や「ひまわり村」のような生活共同体の精神を持ち込み、独自の組織風土を築くことを目指します。



STRUCTURE

組織と体制

診療拠点

🦷 本館・新館

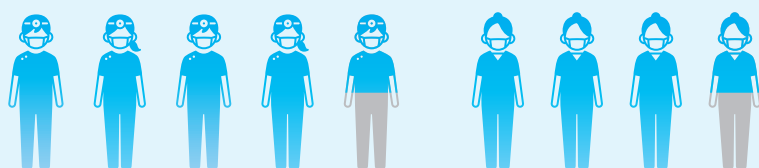


🦷 ひまわりカフェ×タニタカフェ



従業員数

歯科医師 **45名** 歯科衛生士 **35名**



歯科助手
2名



医師(麻酔専門医)
1名



メンタル
コンサルタント
1名



受付
10名



看護師
7名



事務部門
11名



歯科技工士
3名



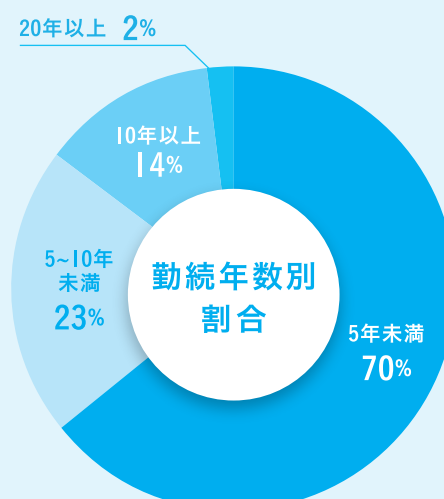
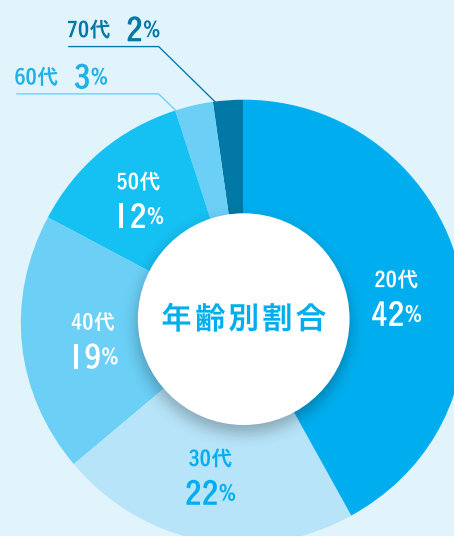
清掃スタッフ
4名



保育士
10名

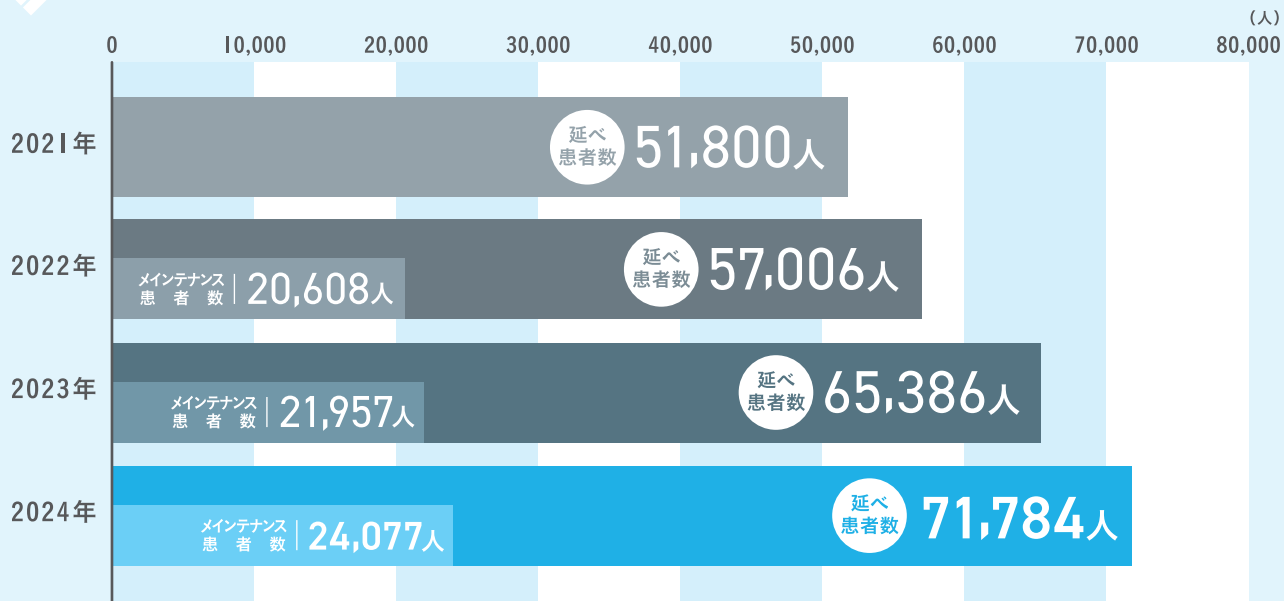


管理栄養士
7名



STRUCTURE

管理患者数の推移



医科歯科連携人数

728人

診療情報提供料
算定人数 253人

診療情報連携共有料
算定人数 249人

口腔機能管理料
算定人数 226人

全身麻酔
静脈内鎮静
実施回数 141回

障がい者・有病者
治療困難患者
治療回数 2,049回

検査部による検査実施回数

口腔機能検査	カンジダ検査	細胞診	唾液検査(シルハ)	ドライマウス検査	cnm遺伝子検査	精密触覚機能検査
161回	27回	37回	75回	3回	1回	3回

管理栄養士による
栄養相談実施人数

344人

摂食嚥下
検査回数

229回

訪問診療回数

5,329回

LOCAL COOPERATION 地域連携

地域連携

医 科

病院

安芸市民病院
愛媛県立中央病院
太田川病院
かしわ記念病院
呉共済病院
県立広島病院
国家公務員共済組合連合会 広島記念病院
埼玉病院
JR広島病院
JA広島総合病院
白川病院
市立三次中央病院
済生会広島病院
たかの橋中央病院
土谷総合病院
長崎病院
比治山病院
広島厚生病院
広島シーサイド病院
広島市立北部医療センター安佐市民病院
広島市立広島市民病院
広島赤十字・原爆病院
広島中央リハビリテーション病院
広島のかしま病院
ヒロシマ平松病院
福山市民病院

松石病院
マツダ病院
山本整形外科病院
吉島病院

診療所

あいクリニック
あおさきこども心療所
秋本クリニック
入澤クリニック
岡村医院
おおや耳鼻咽喉科
かいたいちウィメンズクリニック
片桐整形外科
海田心療内科メンタルクリニック
海田よつ葉クリニック
金谷医院
金谷整形外科クリニック
川上内科クリニック
かわもと皮ふ科
かわはらこどもクリニック
菊川皮ふ科医院
きむらクリニック
くるしま内科循環器クリニック
幸田内科医院
こころのクリニックひまわり
こさか内科

しらね泌尿器科クリニック
すぎた皮膚科アレルギー科
杉本クリニック
高橋内科呼吸器クリニック
たにクリニック
ちえ内科クリニック
津田産婦人科クリニック
津丸内科医院
寺沢耳鼻咽喉科医院
虹の子どもクリニック
根石医院
野島内科医院
原小児科
はるた呼吸器クリニック
深坂内科循環器科医院
細田小児科医院
ほーむけあクリニック
ますだ小児科
まんたに心療内科クリニック
みぞて眼科
向井内科・脳神経内科
森原内科胃腸科
山野上内科クリニック
よしだ内科呼吸器科
陸上自衛隊海田市駐屯地医務室

歯 科 診 療 所

あいあい歯科クリニック
有田歯科医院
Wellかむ矯正歯科
おがた小児歯科医院
かいた駅前歯科
香川矯正歯科クリニック
コアラ小児歯科
GOSI矯正歯科
児玉歯科医院
こにし歯科医院
ダイヤモンドシティ歯科

田部矯正歯科
タマガワ矯正歯科クリニック
ティースマイル矯正歯科
寺谷歯科医院
とまと歯科クリニック
長畑歯科医院
にしはら歯科
パセーラデンタルクリニック
はなの歯科クリニック
広島RS矯正歯科クリニック
広島市医師会千田町夜間急病センター

広島市立舟入市民病院
広島タワー歯科・矯正歯科
まえはら歯科クリニック
マコト矯正歯科クリニック
みちる矯正歯科
宮本歯科医院
やまだ矯正歯科クリニック
やまなか歯科医院
やまの矯正歯科クリニック
吉岡デンタルキュー
ローズクリニック

LOCAL COOPERATION



大学病院

岡山大学病院
九州歯科大学病院
昭和大学歯科病院
東京科学大学病院
広島大学病院
福岡歯科大学医科歯科総合病院



高齢者施設

安芸ひまわり
あとの郷
エバーグリーンホーム
カープヒルズ広島矢野
ケアハウス安芸
光清苑
小規模多機能型居宅介護 響
シルバーホームはたのりハビリ
ソーシャルハウス灯台
たかね荘こやうら

ダーラナやの・くにくさ
チェリーゴード
灯台
はたのりハビリふるさと
はまな荘
ほほえみ有料老人ホーム矢野
メリィハウス庚午北町
りは・くにくさ
隣ご縁熊野
レスパイトケア住マイル安芸



居宅介護支援事業所

あいおい居宅
あいりは在宅相談室広島南
安芸地区医師会居宅介護支援事業所
安芸地区医師会府中町居宅介護支援事業所
いでしたケアプランセンター広島南
宇品くにくさ居宅介護支援事業所
おおうち病院居宅介護支援事業所
カイゴの窓口東
かしのき会居宅介護支援事業所
神田山長生園 介護プランニング
きありの居宅介護支援事業所
居宅介護支援事業所あおいくま
居宅介護支援事業所エバーグリーン
居宅介護支援事業所光清苑

居宅介護支援事業所こごもり
居宅介護支援事業所さいせい
居宅介護支援事業所しらゆり
居宅介護支援事業所中野
居宅介護支援事業所羽ばたき
居宅介護支援事業所ビジデ
居宅介護支援事業所ピース
居宅介護支援事業所府中みどり園
居宅介護支援事業所筆の都
居宅介護支援事業所やすらぎ
くにくさ居宅介護支援事業所
コスモス園天応居宅介護支援事業所
瀬野川居宅介護支援事業所
十日市居宅介護支援事業所

NTTグループケアポート広島居宅介護支援事業所
ニチイケアセンター江波
ニチイケアセンターさか
のぞみ整形外科ヒロシマ居宅介護支援事業所
はたのりハビリ居宅介護支援事業所
はたのりハビリふるさと居宅介護支援事業所
ハーモニーケアプランセンター
ひびき居宅介護支援事業所
ひらまつ居宅介護支援事業所
古川病院居宅介護支援事業所
有限会社福祉計画研究所
洋光台バラ苑居宅介護支援事業所



障がい者施設

時計台障害者支援施設
ユキ園



生活介護事業所

あべにーる南観音



口腔保健センター

広島口腔保健センター



地域包括支援センター

海田町地域包括支援センター
広島市阿戸・矢野地域包括支援センター
坂町地域包括支援センター
瀬野川船越地域包括支援センター
広島市二葉地域包括支援センター



その他

広島市南区役所厚生部福祉課



LOCAL COOPERATION



学会発表・講演活動 (2024年)

吉本はる(管理栄養士)

2024年 6 月 2 0 日	令和6年度広島市こども療育センター愛育園「こども研修」の講師「たのしくかしこく食べて元気な身体づくり」
2024年 7 月 9 日	令和6年度給食施設関係者等研修会「食事の土台となる口腔機能からはじまる食育～調理工夫で食べる力を育む～」
2024年 9 月 2 0 日	ボランティア人間塾「暮らしの保健室でできること」
2024年 1 0 月 3 1 日	海田町地域難病相談会・交流会「「食べる」を支える～安全に食べるための工夫～」
2025年 2 月 2 0 日	総合健康教室事業「食べるお口を支える～いつまでも美味しく食べてフレイル予防～」
2025年 3 月 4 日	令和6年度母子保健研修会「口腔機能の視点からみた離乳食のすすめ方について」

藤井葉子(管理栄養士)

※一部抜粋

2024年 7 月 6 日	千葉心理士研修会	つばめの会、東京の支援者研修会	計 4 回
2024年 7 月 1 9 日	青森県立保健福祉大学		
2024年 8 月 1 日	広島県私立幼稚園連盟研修会	幼稚園、保育園、特別支援学校、	計 11 回
2024年 8 月 2 2 日	赤ちゃん歯科ネットワーク研修	発達支援センターでの研修会	
2024年 8 月 2 7 日	神奈川県伊勢市研修会		
2024年 8 月 3 0 日	福岡県栄養士会 / 摂食嚥下リハ学会シンポジス		
2024年 9 月 7 日	サムエル研修会		
2024年 9 月 1 8 日	アベニールケトン食調理実習		
2024年 1 0 月 4 日	東京都社会福祉保健医療東京都病院機構専門研修		
2024年 1 2 月 1 日	小児在宅歯科医療研究会		
2024年 1 2 月 6 日	日本栄養士会福祉スキルアップ研修		
2024年 1 2 月 9 日	熊本市保育連盟		
2024年 1 2 月 1 1 日	福祉法人恩賜財団母子愛育会研修会		

村田尚道(歯科医師)

学会発表

2024年 2 月 1 6 日	パネルディスカッションJSPENコンセンサス 「在宅療養者の栄養療法に関するコンセンサス」第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会 シンポジウム2 摂食嚥下リハビリテーションと医科歯科連携
2024年 1 1 月 2 日	「障害者歯科診療分野からみた医科歯科連携の重要性」第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会
2024年 1 2 月 1 4 日	ポスター発表「特別支援学校の学校給食における嚥下調整食導入の取り組み事例」第41回日本障害者歯科学会学術大会

研修会・講演会

2024年 1 月 8 日	岡山県委託事業 在宅療養者に対する歯科医療推進事業研修会「障害児の摂食嚥下機能への対応」
2024年 1 月 1 8 日	昭和大学口腔衛生学講座 1月勉強会「小児在宅歯科医療の取り組み 症例報告」
2024年 3 月 1 7 日	岡山県委託事業 在宅療養者に対する歯科医療推進事業研修会 シンポジウム これからの小児在宅医療をみんなで考えようin 岡山「小児在宅に必要な歯科医療」
2024年 3 月 1 7 日	若手歯科医師対象実習セミナー「摂食嚥下の基本講義と診断実習」
2024年 3 月 1 7 日	広島県訪問看護ステーション協議会における二次保健医療圏域研修事業 講演会「在宅におけるオーラルフレイルの対応」
2024年 4 月 6 日	松江臨床研究会 講演会「外来で診る口腔機能とその対応」
2024年 5 月 1 9 日	奈良市歯科医師会学術講演会「オーラルフレイルの予防で美味しく食べるをいつまでも」
2024年 5 月 2 2 日	食と生活リハビリテーション研究学会「教えて！食事における歯と舌のお話」
2024年 8 月 2 5 日	がんサバイバル2024「がん治療 口の元気を保ちましょう」
2024年 9 月 1 日	パール歯科フォーラム「健康を保つコツ」
2024年 1 0 月	岡山障害者歯科ネットワーク10月定例会「ASDへの摂食指導」
2024年 1 0 月 1 7 日	広島特別支援学校 摂食相談
2024年 1 0 月 2 0 日	日本障害者歯科学会研修会「発達期の摂食機能療法」
2024年 1 0 月 2 7 日	東京都歯科衛生士会 研修会「障害者歯科の基本と実践」
2024年 1 1 月 7 日	パール歯科勉強会「歯科でできる“栄養指導”」
2024年 1 1 月 1 7 日	九州PEGサミット「摂食嚥下・口腔ケア」
2024年 1 1 月 2 4 日	東京都立口腔保健センター 在宅診療に役立つ摂食嚥下研修会 「在宅歯科医療における要介護者に対する摂食嚥下リハビリテーション」
2024年 1 2 月 1 6 日	臨床講義(岡山大学)「在宅歯科医療における摂食嚥下障害の治療」

著 書

(共著)日本臨床栄養代謝学会JSPENコンセンサスブック③ 医学書院

ACTIVITY REPORT

活動報告

01 管理栄養士の地域での活動 地域住民の方へのポピュレーションアプローチ

当院では2018年から「暮らしの保健室すまいる」として地域住民の通いの場を目指し、健康相談を実施してきておりましたが、ひまわりカフェを2022年7月7日にオープンし、今では健康総合企業であるタニタが展開するタニタカフェとコラボレーションした共同開発メニューを提供しています。

健康食の特徴は、厚生労働省が提唱する1日の野菜摂取目標量の2分の1(175g)が摂れることです。ご存知でしたでしょうか。ひまわりカフェでは野菜の摂取量はもちろんのこと、噛み応えに着目した食材の切り方や野菜を美味しくいただくことをコンセプトに味付けに工夫を凝らしたヘルシーメニューを提供しております。

そしてひまわりカフェでは単に食事を提供するだけでなく、既存の暮らしの保健室の機能を維持したコミュニティカフェを目指しています。「認定栄養ケア・ステーション」は地域密着型の拠点として、歯科に勤める管理栄養士が食べる土台である「口腔」の視点から栄養サポートに努め、食育や介護予防教室など地域各所で講師としても出向いています。

2024年6月には、海田町役場健康づくり推進課の管理栄養士とコラボレーションし、健康情報コラムをイートイン、テイクアウトともに配布しています。

今後もひまわり歯科の患者さまのみならず、地域住民の方へのポピュレーションアプローチを目指して参ります。

その他 ・海田町子育て支援バスポート事業協賛店



親子保育教室

小児期のお口ぼかん(口腔機能発達不全症)の

予防を目的とした歯科医師、歯科衛生士、保育士、管理栄養士が連携する親子保育教室

完全
予約制

・第2および第4火曜日の11:30~12:30
・1回の教室につき、お子様2~3組まで

対象者

離乳食を開始する時期5~6ヶ月から
3歳ごろまでの乳幼児



子育てサポートの一環として、離乳食の進め方のアドバイスやはみがき指導を行っています。お子様と毎日のように過ごすことで成長や変化に気づきにくいこともあるかと思えます。離乳食を進めていくなかで、偏食や食事がなかなか進まなくなるなどといった「摂る栄養」や「食べ方」に関する悩みをかかえる保護者の方は決して少なくありません。

歯科で行う離乳食の進め方では、実際に日頃食べている形態の食事をご持参いただき、食べる様子をみながら、月齢や身体の成長のみならず、口腔機能を含めた身体の発達の視点からアドバイスを行っています。食事のあとは、歯科衛生士や歯科医師によるはみがきやフッ化物塗布なども行っております。保護者の方からは「お口の状態にあった食形態が知れた。子どものすぐそばではみがきをしてもらえてよかった。」「いつも仕上げ磨きが家ではなかなかできないものの、ここでは体勢のアドバイスが聞けて為になった」などのご感想もいただいています。一回切りの参加のみならず、フッ化物塗布のために定期的に参加されている方が多いです。人生100年時代、乳幼児期の段階で口腔機能を高めておくことが大変重要です。生涯、美味しく食べ続けることができるように口腔の発達のサポートを歯科で育んでいただけるよう努めています。

フレイル予防教室

社会参加はフレイル予防の第一歩！

歯科だからできる口腔機能のサポートとあわせたフレイル予防教室の開催

完全
予約制

・第2水曜日と第4金曜日の10:30~11:30

対象者

65歳以上の高齢者が中心(最大6人まで)



当院のフレイル予防教室は、地域事業の登録を行っており、社会参加の場として当院の患者様に限らず、地域の方もご利用いただいております。65歳以上の高齢者が「自らの介護予防・健康づくり・地域ボランティア活動」を行うことでポイントをためることができ、貯めたポイントは上限はありますが、奨励金となります。

実際に現在はおおよそ20名程度の方が定期的に継続して参加されています。平均年齢は78歳で、3割弱が男性です。中にはご夫婦で参加される方もいらっしゃいます。歯科治療や口腔衛生管理のご予約にあわせて、教室を利用される方もおられます。フレイル予防の柱となる「社会参加」「栄養」「運動」を口腔機能の把握とあわせて実施しています。参加者からは、「体調を崩して、いけないときもあったけどやっぱりここにきたら元気をたくさんもらった。」「次が待ち遠しい。」などの嬉しいご感想もいただいています。今後も和気あいあいと皆様に楽しんでいただける交流の場となるよう努めていきます。

ACTIVITY REPORT

02 歯科衛生士の学会発表 ～第41回日本障害者歯科学会総会・学術大会～

地域開業医における全身麻酔および 静脈内鎮静を用いた歯科治療の実態調査

当院は地域支援型多機能歯科診療所として、地域の歯科では対応が困難な全身麻酔や静脈内鎮静下(以下、麻酔下とする)での集中歯科治療を受け持つことで、有病者や障害者などの多様な治療ニーズに対応しようと日々取り組んでいる。近年、当院での症例数も増加しており、地域におけるニーズも高まっていると考えるため、経年的変化という視点で実態調査をした。対象は2016年度から2024年度で当院にて麻酔下で歯科治療を実施した461症例である。年度別症例数、年齢、性別、希望理由、麻酔時間、治療内容について調査した。なお、データは匿名化された情報を用いて個人情報の漏洩防止に配慮し、書面により本人または家族の同意を得た。症例数は増加傾向で、総数は461例であり、特に全身麻酔は当院内での術前検査やバックアップ体制が整ったことで2020年度以降急増している。性別は男性が46%、女性が54%。麻酔実施年齢は最小4歳、最大70歳であった。麻酔理由としては、歯科治療恐怖症、異常咬扼反射などが多くを占め、症例あたりの平均麻酔時間は130.3分であった。治療内容は、歯冠形成印象が最も多く、次いで抜歯、根管治療、CR充填であった。当院では日帰りで麻酔下での歯科治療へのニーズは増加傾向にある。背景として、麻酔下での歯科治療が安全に実施できるための環境が整っていることや、それらの方法への患者の理解度の向上が考えられる。有病者や障害者だけでなく、歯科治療恐怖症や治療期間の短縮を希望する患者にも有効的な方法と考えられるため、今後も適用例が増加傾向にあると予測される。より多くの地域のニーズに応えることができるよう、適切な歯科医療の提供をし、さらなる体制の充実を図っていきたい。



地域支援型多機能歯科診療所で働く 歯科衛生士における意識調査

当院で働く歯科衛生士のワークライフバランスの実態を明らかにし、データを収集・分析することを目的とする。地域支援型多機能歯科診療所(以下地域支援型)では様々なライフステージの歯科衛生士が働いており、多様な働き方が求められている。2040年を見据えた働き方改革が必要であり、人手が不足する中、当院での取り組みは非常に価値のある点で大変意義がある。当院および某大学口腔保健学科を卒業した女性のうち同意の得られた77名の歯科衛生士を対象とした。臨床研究倫理委員会(承認番号第2024001N号)の承認を得て実施した。対象者77名のうち当院の歯科衛生士群(A郡N=33)他医院の歯科衛生士群(B郡N=44)の2郡に振り分けGoogle formsを用いてアンケートを実施した。育児・介護等のライブイベントに遭遇した時、現在の仕事を継続できると感じますかという問いに対し思うと回答した割合がA郡72.8%、B郡47.7%であり、25.1%の差があった。また雇用条件の満足度においては、A郡87.9%、B郡75.0%、労働環境の満足度においては、A郡90.9%、B郡61.4%という結果になった。これらの差は、地域支援型に求められる“女性歯科専門職の雇用環境改善”によるものだと考えられる。当院ではそれぞれのライフスタイルに合わせた勤務形態があるだけでなく、院内託児所を併設し出産後も復職しやすい環境を整えている。ライフステージの変化を受けやすい女性の就業率を向上させ、活躍の場を設けることが、2040年問題を見据えた上で重要になってくると考える。地域支援型で働く歯科衛生士は仕事に対する満足度が高く、やりがいを感じている事が分かった。また、女性が働き続けやすい環境を整えるためには、ライフステージの変化にも対応した雇用形態が必要であることが分かった。

ACTIVITY REPORT

03 小児在宅

小児在宅歯科医療研究会 in 広島を開催いたしました



2024年12月2日「つながり、拡がり、助け合う」をテーマに、小児在宅歯科医療研究会in広島を、広島大学霞キャンパス内凌雲棟にて開催いたしました(共催:広島大学病院障害者歯科・岡山大学病院スペシャルニーズ歯科)。

100名を超える、小児在宅医療に関わる多職種(医師、歯科医師、歯科衛生士、看護師、家族、教員、管理栄養士、言語聴覚士、保育士など本当に様々です!)が集い、活発なディスカッションにつながる会となりました。

内容也多岐に富んでおり、県立広島病院小児感覚器科で広島県内の医療的ケア児の嚥下機能の診断やりハビリに最前線で取り組んでおられる益田先生の特別講演、地域の中でターミナルまで関わる訪問診療をされて、

在宅医療を受けられる子どもたち、またその取り巻く家族や支援者との連携に取り組まれている秋本クリニック地域医療連携室の笠原先生の特別講演を皮切りに、口腔保健センターで小児在宅歯科医療に尽力されておられる尾田先生による様々な事例の紹介を通しての教育講演、そしてシンポジウム「小児在宅における歯科への提言」と参加者が一体となって小児在宅医療、口のこと、特に食べる問題共有、情報交換、議論が盛り上がりしました。

これからますます需要の増していく小児在宅の分野を、つなげて拡げて助け合いながら取り組んでいきたいと思います。



ひまわり歯科の「人」

副院長 **久保 尚也**

歯科医師

略 歴

2014年 広島大学歯学部卒業

2014年 中国労災病院歯科口腔外科 歯科臨床研修修了

2015年 ひまわり歯科(現医療法人社団湧泉会ひまわり歯科)入社

現 在 日本障害者歯科学会認定医／歯科医師臨床研修指導歯科医



副院長の久保尚也です。まずは私のメッセージをご一読いただきありがとうございます。私は現在、一般歯科治療に加えて高難度の歯周病治療、そして歯科用インプラント治療を専門として担っております。

専門分野ゆえかもしれませんが、歯科医師として歯を失った方とお話する機会が非常に多いポジションになります。8020財団の統計調査によれば、日本人は第1に歯周病、第2にう蝕(虫歯)により歯を失っています。8020運動の成果もあってか日本国民の歯の残存数は年々増えてきておりますが、未だ歯を失う方は多く、その後の歯を補う治療のニーズが絶えない事を現場で実感しております。

近年では口腔健康と全身の健康の関連性がさまざまな研究で示唆されており、少子高齢社会においていつまでも元気な人生を送る上で健康な口腔は切っても切り

離せない密接な関係にあります。つまり歯を失うということは、その人の今後の人生に関わる重要な問題となります。歯周病治療やインプラント治療を通して患者様の健康維持に携われる事を嬉しく思います。当院は地域支援型多機能歯科診療所として、地域医療に貢献することを一つの使命としておりますが、歯周病治療やインプラント治療の専門性を高め患者様に提供する事も、また当院に課された使命であると考えております。

また、当院ではもう一つ、「教育機関」としての顔があります。厚生労働省認可のもと、単独型／管理型臨床研修施設として毎年多くの歯科研修医を受け入れており、当院より地域で活躍できる歯科医師を多く輩出しております。私自身も臨床研修指導歯科医として多くの研修医と接してきております。また、在籍する歯科医師も多く、研修医以降も持続して学べる環境を整えております。地域に根ざす歯科医師の1人として、地域医療のリアルな部分を、これからを担う若手歯科医師たちに伝えることもまた、私の使命です。

未だかつてないほど歯科医療に対するニーズが増え複雑化する中で、地域に根ざす歯科医師として患者様に貢献し、また教育者の1人として人材育成を通して日本の歯科医療に貢献して参ります。



吉本はる

管理栄養士

略 歴

2018年 精神科病院（臨床・給食経営）

2021年 医療法人社団湧泉会ひまわり歯科 入社

2024年 一般社団法人健康マイスター協会
健康マイスター認定取得



幼少期の頃から食べることが楽しみで「食」に関心がありました。健康サポートができる職種として管理栄養士になりました。管理栄養士は「日頃からどのような料理を食べているか？」また「どれぐらいの量を食べているか？」といった食事内容や量を把握し、栄養バランスのチェックや食事指導から、対象者の健康づくりや疾患予防、治療に関わる仕事です。

歯科に勤めるまでは、栄養指導では食事の聞き取りによる「摂り入れる栄養素」の観点での指導を行っていました。対象者の食生活から過剰または不足している栄養素を見出し、過剰摂取の場合は控えるように、また不足している場合は摂って補うようにするための、栄養バランスの整え方の内容でした。しかし、実際に栄養バランスはなぜ偏ってしまうのか、肉や野菜がなぜ不足してしまうのかという要因には、好き嫌いなどの嗜好や調理が手間などといった要因のみならず、歯科に勤めて初めて「食べづらさ」も要因となっていることが

わかりました。義歯の有無や歯の本数は意識してきましたが、口腔に関する訴えがない限りは深く深彫りすることなく指導を行っていました。歯科では食べる機能の維持や管理を行っています。その口腔のサポートの先に「どのような栄養をどれぐらい、そしてどのようにして摂り入れるのか」といった「栄養の摂り入れ方」の視点をもって、乳幼児期、成人期、高齢期のすべてのライフステージにおいて口腔状態の把握から栄養サポートができる場です。

また、歯科には持病がある方のみならず、健康な方やその中間の未病の段階の方などさまざまな方が通院されます。食事は身体を良くも悪くもすることができる身体をつくる源です。だからこそ、歯科における食事サポートで、疾患にいたる前の予防や維持のアプローチが可能だと考えています。不調を感じたら、身体からのSOSサインと捉えてどのような栄養を補うべきか気軽に相談していただける拠点の管理栄養士として今後も努めていきます。



奥山 巴 看護師

略 歴

入社前 急性期病棟、手術室勤務
特別養護老人ホーム勤務

2018年 医療法人社団湧泉会ひまわり歯科 入社

2024年 健康マイスター取得



2018年ひまわり歯科に入社し、8年目に入りました看護師の奥山です。

入社した頃は看護師としてというより歯科助手としての業務内容が多く、どのようにしたら看護師の存在意義を体現できるのか、居場所を模索し、悩んだ事も多々ありました。

私自身、前職場で急性期、周手術期、手術室での看護経験があり、今まで得た知識や経験を活かした歯科ならではの日帰り全身麻酔下治療が可能になるようにと資料・システム作りからスタートし、携わって参りました。歯科恐怖症で数十年間歯科に行けなかった方や、外来ではなかなか治療が難しい小児、全身麻酔下治療を行える歯科医院がなく、県外や遠方から希望される患者様も多く対応させて頂いており、開始時は月に1件程度であった全身麻酔下治療も、今では数ヶ月待ちとなる程の予約を頂いております。



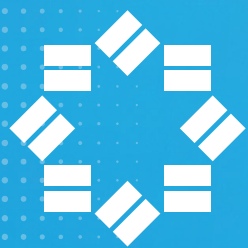
また、治療して終わりではなく、その患者様がその後も同じように困ったり悩んだりされないように、患者様のニーズに合ったメンテナンス方法を、他職種と共に考えています。

「安心・安全」をモットーに皆様に信頼していただける医療を提供できるよう日々務めております。

「2040年問題」として少子高齢化、人口減少が進むことで医療・介護の人材不足という課題に対して健康寿命の延伸、ただ寿命が延伸するだけでなく最後まで自分らしく健康で生きることができるようにと予防医療を推進されている海風診療所 沼田医師との出会いから「医科歯科連携」のシステム作りに関わらせて頂いております。

私たち看護師は、今まで病気になった方と接する機会は多々ありましたが、病気になる前に予防するという観点は乏しかったように思います。しかし、口と身体は密接につながっており歯科から病気を予防する、何もない今こそ自身を知る機会を作り、向き合っていく必要があるのではないかと考えています。ひまわり歯科では口腔内のメンテナンスを大事にされている患者様に、プラスして身体のことにも気に掛けていただけるようなご提案をさせて頂いております。

「自分らしく最後まで健康に生きる」ために、今よりもっと、自身を大切に頂くきっかけになれば幸いです。



本体サイト



youtube



Instagram